



オアシス

文責：学長
桑原雅次

出雲芸術アカデミーだより 2023年9月26日発行 第65号

9月の中旬を過ぎるといのに蒸し暑い日が続いています。古くから「暑さ寒さも彼岸まで…」と言われていますが、そろそろ秋らしい天気が待ち遠しくなります。

10月29日に開催される「國譲」公演の練習が、本番に向けていよいよ熱を帯び、佳境に入りつつあることが感じられるようになりました。この公演に関わる全ての方の熱意と連帯感で盛りあげていけるよう認識を新たにしていきたいものです。

IZUMOpera コーナー



●アウトリーチ事業が始まります！

本アカデミー事業の中でも重要な位置づけで取り組んでいる、出雲フィルハーモニー・アウトリーチ事業「音楽と音楽家の出前2023」が今年度も10月からスタートします。今年度の出前編成は次の3編成です。

- A：クラリネット、ファゴット、トランペット、トロンボーン、コントラバスのアンサンブル
- B：弦楽器（ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ）のアンサンブル〈弦楽四重奏〉
- C：声楽（ソプラノ、テノール）とピアノのアンサンブル

今年度は37件の申し込みがありました。すべての施設を訪問したいところですが、諸般の事情で23施設に訪問いたします。内訳は次のとおりです。

◆小学校…3、◆教育支援施設…1、◆幼稚園…6、◆保育所…11、◆こども園…2

この事業の主な趣旨は、音楽芸術に接する機会の少ないところへ出向き、生の音楽をお届けし、音楽そのものに少しでも興味を持っていただけるよう働きかけるものです。また、出雲フィルハーモニー及び出雲芸術アカデミーへの理解と関心が同時に深まるよう努力しています。

このアウトリーチ事業は、2月に開催される「夢いっぱい♪春まちコンサート2024」につながります。各施設で出会った方々とホールで再会し、編成が大きくされた「出雲フィルハーモニー・チェンバーオーケストラ」としてコンサートを鑑賞していただく企画です。

- ★実施日：令和6年（2024）2月11日（日祝）
- ★会場：大社文化プレイスうらら館 だんだんホール



LPレコード音楽サロンから

第11回の音楽サロンは、チャイコフスキーの最高傑作ともいわれる「交響曲第5番」を鑑賞しました。その折に第2楽章についてのイメージや感想を参加者の皆さんに尋ねてみました。まるで音楽の授業のような課題でしたが、多くの方から感想を寄せていただきました。その感想を拝見するに、それぞれの感受性が素晴らしく大人の感性を感じずにはいられませんでした。その一端を次に紹介します。

☞弦の暗さがロシアをイメージする中、ホルンに続く管楽器の明るさがヨーロッパを表現している。そのうち覚醒するがごとく、明るい影像が浮かんできました。心安まる→チャイコフスキーが得た西洋なのか。しかし、最終楽章はスラブ的なのでしょうか…。

☞ホルンの名旋律に始まるこの楽章は、甘く切ない、まるで男女2人のダンサーのバレエのよう。2人の中は、突然現れる「運命の主題」によって引き裂かれそうになる…。それでも手を離さない。

☞人生を感じました。70歳になった今までの道のりの楽しさ、辛さ、後悔、悔しさ、よろこびが走馬灯のように思い出され、涙がこぼれてなりませんでした。関係の皆様、ありがとうございました!!

☞1楽章の不安、苦悩を引きずりながら始まり、ホルンの優しい旋律に癒され、弦の美しい旋律に慰められたと思えば、金管の運命の主題で現実に戻される人生の縮図のよう。それにしても、バーンスタイン&ニューヨークフィル60年代はアグレッシブ! これもまた良いです!!

フォトギャラリー

